

日本二十六聖人名簿

二十六聖人記念碑、舟越保武、1962年



この記念碑は記念館の前、西坂公園にあります。下の名簿が右からの順番になります。

26 聖人の列福・列聖の日付について

26聖人の23人は1627年9月14日に福者になり、3人のイエズス会員は別に明日、1627年9月15日に列福された。しかし、この段階、パウロ三木・ディエゴ喜斎とヨハネ五島はイエズス会内の祝いとして、つまり限定的な形で福者となり、1629年9月26日に初めて正式な形で26聖人が福者として祝えるようになった。列聖にも発表時期のズレがあったが、[列聖式は6月8日に行われたが、その段階3人のイエズス会員が含まれていなかった。その二日後の6月10日付で26人が合わせて列聖されたことが発表された。]一般的に1862年6月10日に26人の列聖がまとまったと言えよう。祝日は殉教日に当たる2月5日になったが、西洋に古い伝統に基づいて5日に祝われていた聖アガタの祝日と重なるため、日本以外の祝日は2月6日となっている。(それぞれの正式史料(ラテン語)は、Leo Magnino, "Pontificia Nipponica", Romae 1947, pp 145-50に出ている。)

この順序は当時(1597年)のルイス・フロイスの記録による。日本語訳は、フロイス、ルイス『日本二十六聖人殉教記』1597『聖ペトロ・バプチスタの書簡』、1596-1597、結城了悟訳・解説 純心女子短期大学・長崎地方文化史研究所 第十輯1994、1995年2月)。

1. 聖フランシスコ吉。京都、大工。逮捕されてはいないが、殉教者と行を共にしたいと願い、長崎への途中で捕らえられ、殉教者に加えられる。年齢不詳。
2. 聖コスメ竹屋。尾張、刀剣師。受洗後、伝道士として大阪のマルティン神父を助ける。愛をもって病人の世話をし、神父の支えとなった。38歳。
3. 聖ペトロ助四郎。京都。殉教者の世話をしようとして、京都のオルガンティノ神父から派遣されたが、途中、自分も縄を受け、受刑者の一人に。年齢不詳。
4. 聖ミカエル小崎。伊勢、弓矢師。ある日、宣教師の説教を聞き、言仰の道へ。フランシスコ会第三会に入会。息子トマスと共に殉教。46歳。
5. 聖ディエゴ喜斎。備前、イルマン(殉教直前にイエズス会に入会)。体をやりで貫かれる時、小声でイエズスとマリアの名を唱えた。64歳。
6. 聖パウロ三木。摂津、イルマン(イエズス会修道者)。「わたしは何の罪も犯していない。キリストの教えを広めたがために処刑されます」と群衆に。33歳。
7. 聖パウロ茨木。尾張。弟レオン鳥丸と共に貧者、病人の世話をし、宣教に力を尽くす。死を前に「神よ、あなたに命をささげます」と祈る。54歳。
8. 聖ヨハネ五島。五島、イルマン(殉教直前にイエズス会に入会)。「父上も神の教えのまことを信じ、怠りなく神にお仕えくださるよう」と言って自分のロザリオを父に渡す。19歳。
9. 聖ルドビコ茨木。尾張。京都のフランシスコ会修道院で侍者として仕える。司祭が逮捕の時、彼は除外されたが、捕らえよう願った。「自分の十字架はどこ」と刑場で尋ねた話は今も語り継がれる。最年少者。12歳。
10. 聖アントニオ。長崎。父親は中国人、母は日本人。マルチノ神父に京都に連れて来られ、他の少年たちと共に教育を受ける。刑場に来て嘆く両親に、慰めと励ましの言葉をかける。13歳。
11. 聖ペトロ・バプチスタ。スペイン。フランシスコ会司祭。キリストにならって両手を釘付けにされることを願った。イエズスとマリアの名を呼び息絶える。48歳。
12. 聖マルチノ・デ・ラ・アセンシオン。スペイン。フランシスコ会司祭。やりで体を突かれる時、大声で「主よ、わが魂を御手に委ねます」と叫んだ。30歳。
13. 聖フィリップ・デ・ヘスス。メキシコ。フランシスコ会修道士。喜びの涙を流し賛歌を歌って息を引き取る。24歳。
14. 聖ゴンザロ・ガルシア。インド。修道士。やりで突かれる前、刑吏に悔悛と改宗をすすめたという。40歳。
15. 聖フランシスコ・ブランコ。スペイン。司祭。十字架にはりつけられた時の顔は、微笑が死後も消えなかったという。28歳。
16. 聖フランシスコ・デ・サン・ミゲル。スペイン。修道士。若くしてフランシスコ会に入会。貧しい人や病人の友となり、愛徳の実践者。53歳。
17. 聖マチアス。京都。家がフランシスコ会修道院のすぐ近くにあった。洗礼後、間もなく迫害が始まり捕らえられた。年齢不詳。
18. 聖レオン鳥丸。尾張。パウロ茨木の弟。フランシスコ会士のもとで伝道士。京都市中の人たちに尽力し、「神の聖役者」と呼ばれる。48歳。
19. 聖ボナVENTウラ。京都。出生後受洗。両親の死で仏教徒として育ち、子供のとき僧侶になるため寺に入った。ある日、受洗したことがわかり、フランシスコ会の同宿として教理の勉強に励み、宣教に尽力。年齢不詳。
20. 聖トマス小崎。伊勢。ミカエル小崎の息子。マルチノ神父を手伝う。信仰深い少年で、司祭になる希望を持ち、母親にあてた手紙は感動的。14歳。
21. 聖ヨアキム神原。大阪。最初は医学を学んだ。ある日、宣教師の説教にひかれ受洗。貧しい病人たちのために働く。40歳。
22. 聖フランシスコ医師。京都。豊後の大名、大友宗麟の侍医を務める。京都で洗礼を受け、聖ヨゼフ病院で活躍。46歳。
23. 聖トマス談義者。伊勢。キリストの教えを聞き改宗。その後、フランシスコ会の伝道士として働く。強い正義感の持ち主。36歳。
24. 聖ヨハネ絹屋。京都。織物師。修道院近くに住み、外国人宣教師と接触の機会が多く、その教えを聞いて洗礼を受ける。28歳。
25. 聖ガブリエル。伊勢。京都奉行に仕えていたが、改宗してフランシスコ会に入り司祭、修道士の仕事を手伝う。両親も信徒に。19歳。
26. 聖パウロ鈴木。尾張。若くして洗礼を受け、フランシスコ会の伝道士。通訳として外国人司祭の宣教を助け、自らも説教師として活躍した。49歳。